第七講　宗教論〈選択肢問題〉

私は長いこと京都に住んで、毎日のように道で僧侶と出会ったし、時には寺院をおとずれて、そこに住む僧職の方と対面することも多かったが、どのお顔もなべて、迷いも悩みも知らぬ（と見える）平穏無事な、ふっくらとしたお顔ばかりであるのが、昔から不思議に思われてしかたがなかった。僧服をまとう身とあれば、日々これ仏法、「日々これ好日」、さればこそこのような満ち足りたお顔がそろうことになるのだろうか。

しかし私からすると、僧という身分であることほど怖いことはない。臨済和尚（りんざいおしょう）は、「自分を救う者は自分のほかにはない」と言ったが、一個の人間が僧服をまとう身になることを決断するに当たっては、まず他者への救済者として自立できるより前に、それに先立つ A<u>自分自らの始末がつけられているはずである。</u>あるいは僧となることとそのことによって自らの在りかたに決着をつけようとする覚悟あってのことであるはずだと思われる。それなのに、あののびやかな、時には堂々と俗臭を漂わせたお顔は、一体どういうことなのであろう。

およそ人間として成長するためには、絶えず現在の自分の生き方を恥じることが必要であろう。自らを恥じるとは、自らを客観視する別の眼をもち得ることである。現在の環境に埋没することなく、つまり現在の職業や地位に腰を据えてしまうことなしに、自分の新たな可能性を絶えず開拓しようとする気魄（きはく）をもち続けること、このことこそが、およそ道を求める者の――社会人たると宗教者たるとを問わず――もっとも基本的な要件であろう。［　B　］人に向かって法を説き、ひとかどの救済者として自立するほどの人であれば、なおさら、自らをその道の完成者として完結させてしまってはならぬはずである。もし、いささかでも自己完成者としての意識が残っていたら、その人はすでに救済者たる資格はない。しかし、この痛切なディレンマを乗り超えるための苦悩を知らぬ説法者が、今はあまりにも多い。「平穏無事な、ふっくらとしたお顔ばかり」という風景は、こうして生まれる。

臨済禅師の師であった黄檗和尚（おうばくおしょう）に、次のような珍しい逸話がある。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ある役人が、黄檗のところから布施を乞いに来た供養主（托鉢僧）に問いかけた、「黄檗和尚はまるで驢馬そっくりだ。あんな人のためにそなたは供養主となって、どうしようというのだ」。その僧は返す言葉もなく、帰ってきて黄檗にその話をした。すると黄檗は言った、「道薄く人微けくして、甚だ是れ消け難し」。（『祖堂集』）

「道薄く人微けく……」というのは、黄檗その人の深刻な告白なのであって、世道人心の退廃（今の日本国のような）を歎いての言葉なのではない。「 C 」というのである。おそらく晩年の黄檗の逸話であろう。D<u>われわれが彼について抱く普通のイメージ</u>を裏切るような話ではあるが、しかし実は彼の隠れた一面を、しかも鮮烈に語ってくれている。つまり、彼は深く羞を知る人だったのである。宋代初めの名僧、五祖法演も、「私は求道者となって二十年、今やっと羞を識るようになった」と述懐した。それは深い自責の念の現われであり、修行が深まれば深まるほど、自らの内奥から衝き上がってくる、自己省察の真率な表白にほかならない――「このおれはダメな僧だ！」と。そして、この「識羞」の省察あってこそ、その人の道行は深められ高められる。それを欠いた説法者は、それこそ檀家から「供養をいただく資格はない」。『法句経』に「世にもし人あつて、能く慚愧を知らば、是れを誘進と名づく。良馬に策つが如し」というのも、羞かしいと思う心を失わぬ人こそが人を教え導くことができるのだ、という教えである。その心のない人は、人にお説教を垂れる資格はないし、まして「今は物ばかり豊かで、人の心は貧しい」などという E 歎きを他人事のように語ることは、口が裂けてもできないはずである。

（入矢義高の文章による）

「弊社では入矢義高先生の著作権ご継承者様を探しています。著作権ご継承者様に関する情報をお持ちの方はご連絡ください。」

問１　傍線部Ａ「自分自らの始末がつけられているはずである」とは、どのような「始末がつけられているはず」なのか。次から選びなさい。

①　仏法を悟り、「日々これ好日」の境地を感得したこと
②　苦悩する人を救うことを、道を求める宗教者の使命とみなしたこと
③　自らをその道の完成者として完結させてしまってはならぬと覚悟したこと

④　現世の悩みを断ち切って、僧服を身にまとうことを決断したこと
⑤　僧という身分であることの怖さを恐れないで、迷い悩む人の中に入っていくことを選んだこと

問２　空欄［Ｂ］に入る最適なものを、次から選びなさい。
①　まして　②　かえって　③　はしなくも　④　もしくは　⑤　みだりに

問３　空欄［Ｃ］に入る最適な文を、次から選びなさい。
①　いかにも私は徳もないお粗末者、とても供養をいただく資格はない
②　いかにもおまえは道に達していない修行の身、とても供養をいただく資格はない
③　いかにも私は歩みの遅い驢馬だが、しかしそんな役人から供養などいただくつもりはない
④　いかにも道をもたない徳のない役人から、とても供養をいただく気にならない
⑤　いかにも人情の薄い人たちばかりだが、かといって私もおまえも供養をいただく資格はない

問４　傍線部Ｄ「われわれが彼について抱く普通のイメージ」を、筆者はどのようなものだと想定して発言しているか。次から最適なものを選びなさい。
①　世道人心の退廃を歎く高僧　②　修行を積んで悟りきった高僧
③　平穏無事なふっくらとしたお顔の高僧　④　苦悩をにじませたお顔の高僧
⑤　驢馬そっくりな風貌の高僧

問５　空欄［Ｅ］に入る最適なものを、次から選びなさい。
①　搦(から)め手の　②　意味ありげな　③　紋切り型の
④　もってまわった　⑤　人口に膾炙(かいしゃ)した

第七講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　入矢義高＝いりや　よしたか（一九一〇～一九九八）鹿児島県生まれ、京都大学文学部卒。中国古典文献学・仏教学の学者
●臨済和尚＝りんざい　おしょう（？～八六七）中国唐の時代の禅僧
●黄檗和尚＝おうばく　おしょう（？～八五六）中国唐の時代の禅僧。臨済和尚の師
●五祖法演＝ごそ　ほうえん（一〇二四？～一一〇四）中国宋の時代の禅僧

語句

逸話＝いつわ→ある人について、世間であまり知られていない話・こぼれ話・エピソード・アネクドート
托鉢＝たくはつ→修行僧が経文を唱えながら家々をまわり、食べ物やお金などの布施(ふせ)をもらうこと
布施＝ふせ→寺や僧侶に渡す金品　類義語　喜捨＝きしゃ
檀家＝だんか・だんけ→ある決まったお寺に仏事を依頼し（お墓があり）、また布施でお寺を支援している家
真率＝しんそつ→飾り気がなくまじめであること
省察＝しょうさつ・せいさつ→自分自身を振り返り、いたらなさを考えること
能く＝よく→「～できる」（漢文の素養です）　不能＝あたはず→「～できない」（同じく漢文の素養です）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第七講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）幾多の苦ノウの日々を乗り越えて　①能　②脳　③膿　④濃　⑤悩
（イ）山門に袈裟掛けのソウ侶が入っていく　①葬　②壮　③僧　④装　⑤想
（ウ）せっかくの意見が大勢にマイ没する　①枚　②埋　③昧　④舞　⑤米
（エ）平オン無事な日々を呑気（のんき）に暮らす　①穏　②怨　③御　④温　⑤恩
（オ）他者を救う前に自己を救サイする　①災　②柴　③済　④催　⑤斎
（カ）私にはお布施をいただく資カクはない　①覚　②穫　③各　④格　⑤閣
（キ）心中の思いを述カイした書物　①戒　②回　③解　④懐　⑤怪
（ク）飾りやいつわりのないシン率な答え　①信　②深　③真　④心　⑤芯
（ケ）おのれを恥じる自己ショウ察　①省　②焼　③証　④小　⑤笑
（コ）せつせつと心の叫びを告ハクする　①吐　②白　③薄　④博　⑤拍

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　宗教論

《本文の対比構造》

主役＝筆者の見解

僧という身分であることほど
怖いことはない
自らをその道の完成者と見てはいけない
自己省察・自責の念
羞（はじ）を知る僧侶＝臨済和尚・
黄檗和尚・五祖法演

↕ 主な対比

敵役

迷いも悩みも知らぬ僧侶
世の中や人の心の貧しさを嘆く
＝他人事（ひとごと）・他責的言動

↕ 小さな対比

脇役＝一般論

高名な僧侶に対する普通のイメージ
＝他者への救済者として自立

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《傍線部解説》

筆者が重視している考え方です。この傍線部に続く部分で、「自らの在りかたに決着をつけようとする覚悟」「絶えず現在の自分の生き方を恥じることが必要」「現在の職業や地位に腰を据えてしまうことなしに、自分の新たな可能性を絶えず開拓しようとする気魄をもち続ける」「自らをその道の完成者として完結させてしまってはならぬはず」などと言い換えられています。そのため僧侶になることは「怖い」ことであり、「ディレンマ」「苦悩」を引き受けなければなりません。したがって、③が正解です。①の「仏法を悟り、『日々これ好日』」は今回の敵役です。同様に④の「悩みを断ち切って」も⑤の「僧という身分であることの怖さを恐れない」もことごとく敵役です。満ち足りちゃって、「迷いも悩みも知らぬ（と見える）平穏無事な、ふっくらとしたお顔」のヤツラです（失礼、方々（かたがた）です）。主役メッセージの解説を求めているのに、敵役を答えてしまう、これぞ典型的な対比混乱の誤りです。②は一般的な僧侶へのイメージです。敵役とは言えませんが、主役でもない。はっきり脇役として区別しなくてはなりません。こうした設問を見るにつけ、〝文章読解力〟と言われているものがグループ分け、対比で文章が読める力なのだとわかります。つまり〝入試現代文〟で求められている力、とりもなおさず大学の各学部での高等教育を受ける前提の力とは、比較の区別能力、書かれた文章において、筆者は〝何ではなく何を主張しているのか〟を判断する力なのです。

問２《空欄補充》

強調表現が入ります。自分を完成者だと思ってはいけない、まだまだ未熟だと考えることが「社会人たると宗教者たるとを問わず」（受験生もそう、教師もそう、予備校講師もそう）大事、「基本的な要件」です。ですが、宗教者なら「なおさらだ」というわけです。したがって①の「まして」が正解です。ちなみに③の「はしなくも」は意図せずして・図らずもという意味です。

問３《空欄補充》

筆者側の見解を問うています。言い換えれば、筆者がオススメしている黄檗和尚の言葉が入ります。「世道人心の退廃を歎い」ているような僧侶の反対です。さらに言い換えれば、他人の悪口を言う〝他責〟の反対で、「自責」の方です。この黄檗和尚と

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

同じように立派な、つまり自分はまだまだと恥を知っている僧侶として「宋代初めの名僧、五祖法演」のエピソードもこの後に出てきてヒントになります。それによれば「このおれはダメな僧だ！」です。こういうわけですから、「いかにも私は徳もないお粗末者」と自分を責めている①が正解です。他はすべて他人のことを悪く言ってます。確認しましょう。②は「おまえは道に達していない」が×です。③は「いかにも私は」はＯＫだったのですが、「しかしそんな役人」となってしまい、他人の悪口にすりかわっています。④は「道をもたない徳のない役人」が×。⑤は「人情の薄い人たちばかり」が×。こうした他責的他罰的言動は、自分は満ち足りた今回の敵役の言葉と言えます。したがって、②〜⑤すべて対比混乱の誤りです。

問４《傍線部説明》

おもしろい設問ですね。筆者の見解でもなく、敵役でもなく、一般的なイメージを問う問題です。設問にも〝色〟があるということです。言い換えれば、こうした問いの構成、問題の作り方からしても、文章を対比で読んでね、と大学側が語っているということです。①③は世間の悪口を言う今回の敵役ですから、対比混乱の誤りです。⑤の「驢馬そっくり」というセリフはエピソード中の「役人」のものです。「われわれ」の「普通のイメージ」とは違いますから、記述に反すると呼んでもよいですし、あるいは、ともかく他人の悪口を言う態度としてまとめれば敵役に属するとも言えます。その場合は、対比混乱の誤りです。④の「苦悩」は筆者が重視するものです。これはこれで設問の要求とは違うものですから、対比混乱の誤りです。こうして消去法のようになりますが、正解は②です。本文中の表現としては「他者への救済者として自立できる」にいちばん近いものということになります。

問５《空欄補充》

敵役が入ります。「人の心は貧しい」などと「他人事のように語る」のは、第一段落に登場した「満ち足りたお顔」の僧侶たちです。彼らはお顔も同じようなのが「そろう」方々です。「どのお顔もなべて」「ふっくらとしたお顔ばかり」とありますね。さてこの方たちは話す内容もそっくりで〝それ、百万回聞いたよ〟と言いたくなるようなことを繰り返しているということでしょう。こうした〝判で押したような〟画一ぶりを「紋切り型」というのです。江戸の伝統的なお菓子である〝金太郎あめ〟と同じ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

です。切っても切ってもどの顔も同じ（ちがったら怖い！）。〝ステレオタイプ〟〝ステロタイプ〟とも言います。この英語の言い換えもぜひ覚えておいて。以下、意味の難しそうな選択肢について、説明をしておきます。①「搦め手」は、お城の裏門や陣地の後ろ側のことです。そこから相手が注意を向けていない所、相手の弱点という意味もあります。⑤「人口に膾炙」は世間で評判、広く知られているという意味です。④「もってまわった」は遠回しな言い方のことです。まわりくどいということです。

模範解答

問１＝③　問２＝①　問３＝①　問４＝②　問５＝③

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第七講

（ア）⑤　（イ）③　（ウ）②　（エ）①　（オ）③
（カ）④　（キ）④　（ク）③　（ケ）①　（コ）②

解答漢字一覧

（ア）苦悩　（イ）僧侶　（ウ）埋没　（エ）平穏　（オ）救済
（カ）資格　（キ）述懐　（ク）真率　（ケ）省察　（コ）告白

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。